

## 第3回県民講座を開催しました

11月11日（土）に、新潟市江南区文化会館を会場に「第3回県民講座」を開催しました。新潟県小中学校PTA連合会と「深めよう 絆 にいがた県民会議」が合同で開催し、「いじめ問題や家庭教育について考えよう」をテーマに、基調講演、実践発表、パネルディスカッションを行いました。

### ◆ 基調講演

演題：「子どもの行動には意味がある」

講師：横澤 富士子 様（糸魚川市教育相談員、上級教育カウンセラー等）



- ・子どもは、誰もが自分の夢を実現できる力をもっている。その力を最大限に引き出すことができるのは親である。大切なのは自己肯定感を高めることである。
- ・心の成長は甘えと反抗の繰り返しである。25歳頃まで続く。不安を感じると「依存（甘え）」することによって安心を得て、それが意欲ややる気を生んで、「自立」へとつながる。「自立」には不安が伴う。このサイクルが成長となる。
- ・子どもの感情を親がしっかりと受け止め、共感してあげると、子どもは自分の気持ちに気が付き、主体的に生きる力が付く。

- ・子どもが自己をコントロールできるようになるためには、次の2点が大切である。
  - ①乳幼児期に十分に親に依存し（甘え）、ありのままの自分を受け入れてもらっているという感覚を得ること（愛着形成）。
  - ②親は子どもの自己主張に向き合い、受け止め、親としての考え方（しつけ）を示すこと。

### ◆ 実践発表

テーマ：「コミュニケーションを重視し、地域とのかかわりの中で子どもたちを育てるPTA活動」

発表者：内藤 善幸 様（長岡市立石坂小学校 元PTA会長）

- ・PTA総会出席率100%の団結力を生かし、「焼き芋交流会」を中心とした「ふるさと石坂ふれあいプロジェクト」を、保護者、地域との連携により展開している。
- ・学校と地域をつなぐ「地域連携ボランティアコーディネーター」の活用、PTAによるキャリア教育（福祉・介助体験）の実施等にも取り組んでいる。



### ◆ パネルディスカッション

テーマ：「いじめ見逃しゼロのための地域連携のあり方」

コーディネーター：工藤 ひとし 様（元中学校長）

パネリスト：横澤 富士子 様、江口 正洋 様（津南町立津南小学校長）、岡田 龍一 様（上越市小中学校PTA連絡協議会長）



- ・情報を共有して、何でも言い合える雰囲気づくり、学校に意見を出せる関係づくりが、小さいいじめの芽を見逃さないことになる。本音を出せる前提に信頼関係が大切である。
- ・いじめを受けている子どもは平静を装う。SOSをキャッチし、いじめを相談できる雰囲気づくりが大切である。

- ・「あなたの味方だよ」というスタンスで話を聞く。聞くときのポイントは「黙って、うなずきながら、優しさと思いやりをもって、相手の気持ちを聞く」の四つである。
- ・親は子どもに手本を示す。大人が変わらないと、子どもは変わらない。「信じて、任せて、待つ」姿勢が大切である。
- ・地域が教師を育てる。地域と積極的に関わる教師が求められている。
- ・親、祖父母、教師、地域等、様々な人から、子どもが頑張りをほめられるようにする。